

門入遠 13 特
番 2208
卷 16

顯晦錄四編叙
愚嘗讀和漢之史外戚專權國不危
者殆鮮焉昔日源右幕下之時政子
之及時政祿足以育臣妾名不過以
四部幕下遊爵以大夫貴以政柄大
鵬之寤根于此漢惠肅皇后臨朝欲
立諸呂為王王陵不可云嚮高帝有
遺命非劉氏而王天下共擊之及陵

高井蘭山子校

星月夜顯晦錄

第四編
全五冊

蹄齋北馬子画

罷相遂王呂氏而後權柄歸呂氏漢
祚幾易陳平周勃為左祖切名使
偉而已為由之觀此英雄成大業人
所恩和漢以一日先哲有言曰志於道
德者切名不足以累其心志於切名
者富貴不定以累其心志富貴者則
無所不至矣志於富貴孔子之所謂
鄙夫也夫以鄙夫而欲久富貴甚可

渴身秦時李斯趙高焚書坑儒指鹿
為馬甚志滑欲以奪政柄縱身日以
久享富貴為可樂而不知富貴身不
可恃而富貴絕祀之機甚在焉此條
所為則是也為適義盛構謀不密大
義不戒則有謂此條幸而免也今
茲顯晦錄四編嗣出都出事于斯故
聊述之為序丈夫甚可不思身哉

文化七龍會庚午春正月

東都 高井伴寬思明撰



白山人書

星月夜頭晦録四篇總目次

卷一 僧安念鎌倉の諸士と術

○安念法師在柄胤長が亭に密謀と談圖
由利中八郎変心千葉助成胤安念を生捕

○安念法師面縛せしむる圖
金窪行近由利惟久欺て在柄胤長と擒

卷二

○在柄胤長必死の勇と現を圖
泉小次郎親平工藤祐友と討ち鎌倉を退

○親平祐友建橋の戦圖
義盛三浦一黨九十八人勤功に替胤長が恩免を願
○和田義盛三浦一黨を牽て御所へ推参の圖
○在柄胤長と緬縛し檢非違使へ渡さんとする圖

卷三

胤長北條義時と向答大言衆と驚け

○古郡保忠荏柄胤長を励け圖

尼御臺即智次断胤長向答及

○尼公篠と捲り胤長と糾りあふ圖

胤長流刑義盛北条が奸邪を怒誅せんと計

○荏柄平太胤長配所奥州へ送りし圖

和田朝盛父と諫義盛荏柄の宿地を懇望す

○和田義盛の使者横山右馬允時兼方より到る圖

○和田義盛五条局より就く願と達する圖

卷四

義時非道義盛が拜領の宿地を奪

○金窪行近荏柄の宿地より来勤番を追ひし圖

○和田義直馬を馳り朝盛を逐ふ圖

和田朝盛忠孝両全を慮り鎌倉を出奔す

○和田義盛怒り朝盛入道を折檻の圖

○宮内兵衛尉公氏義盛が亭へ使を勤圖

相模次郎朝時帰赤三浦義村兄弟変心

義盛義兵出陣土屋古郡北条が館を攻破

○鎌倉商民恐怖の圖

幕府西北兩門合戦朝比奈恠力惣門を揺崩

○土屋義清古郡保忠北条が館を攻破圖

○朝比奈義秀御所の北門を推壊圖

義清保忠北条義時を襲ひ朝比奈勇戦御所方數輩討死

○御所放火実朝御立退和田勢夜軍の圖

總目終

卷五

誠忠所謀執不與
惜覆墜禍以焚髮

泉小次郎親平
六孫王經基五男下野守滿快後胤
泉二郎公衡嫡子シカ力無双勇士
建曆三癸酉年黨ヲ語ニ北條家ヲ
亡シ上事露討手ヲ向ラレ討手工藤
祐友ヲ討テ逐電ニ行方ヲ知ラス



阿静坊安念

信州ノ産ニテ青栗七郎為廣ノ弟
幼少ニテ出家シ巖山ニ登テ天台ノ
要旨ヲ得碩学ニシテ布留那ノ辯
アリ力量三入ニ對ス泉小次郎親平ガ
義氣ヲ感シ鎌倉ノ説客ヲ勉テ事
露ノ橋ト成四國ニ配流

後引一時依り翁
賊謀可侵良女之托



碌々小人
政権握る勇
士失邦道



星月夜日篇卷二



荏柄平太胤長
和田左門尉平美盛末弟和田
五郎長子建仁年中伊豆国
伊東崎洞中二大蛇斬建曆三
癸酉年泉小次郎が隠謀組と稱
成時悪ヲ罵一族ノ前ヲ引
渡サレ奥州若瀬郡ニ配流和田
美盛滅亡ノ時配所ニ殺サレ馬
連シ強カク勇士ニ和田ナレ荏柄
宅地ニ三時久氏ノ弟呼

星月夜日篇卷二

豪傑成衣
欲討賊
天何為不
聚謀心

和^ワ田^タ新^{シン}左^サ衛^ヱ門^{メン}尉^ヱ常^{ジョウ}盛^{セイ}
和^{ヨシモリ}田^タ美^ミ盛^{セイ}嫡^{チツ}男^{ナン}弓^{キウ}馬^バ武^ブ略^{リョク}
多^タ達^{ダツ}入^{ニル}建^{ケン}曆^{リキ}三^{サン}癸^{スイ}酉^ウ年^{ネン}父^フ美^ミ盛^{セイ}美^ミ
兵^{ヘイ}ノ時^{トキ}大^{ダイ}事^ジ不^フ成^{セイ}竟^{ケイ}自^ジ害^{ガイ}



枝^エ山^{サン}美^ミ章^{ショウ}
沖^{ウキ}主^ヌ忠^{チュウ}子^シ
美^ミ甚^シ忠^{チュウ}深^シ
乙^ニ新^{シン}

古^コ郡^{クニ}新^{シン}左^サ衛^ヱ門^{メン}尉^ヱ保^ホ忠^{チュウ}
和^{ヨシモリ}田^タ美^ミ盛^{セイ}カ^カ親^{シン}族^{ソク}ナリ
武^ブ勇^{ユウ}拔^{ハツ}群^{グン}ニ^ニテ^テ剛^{ガウ}力^{リキ}ノ^ノ聞^{キコ}アリ
和^{カミヤ}田^タ合^{カヒ}戦^{セン}ノ^ノ時^{トキ}御^ゴ所^{ショ}ノ^ノ西^{セイ}門^{モン}ノ^ノ軍^{イクサ}
一^{ヒト}騎^キ当^{トウ}千^チノ^ノ働^{ハタケ}ヲ^シテ^テ竟^{ケイ}ニ^ニ自^ジ害^{ガイ}ス



土屋大学権介義清
 三浦太郎平義経四男岡崎四郎
 義實力次男貞田与一美忠ニハ頼シ
 武勇大カ英士一族ノ棟梁和田美盛
 一味ノ御所北門ノ軍ヲ始萬不當ノ勲ヲ
 討死ス
 忠肝義膽真英雄
 青史万年傳不朽



星月夜頭悔録四篇卷之一

目録

○僧安念鎌倉の諸士と銜ふ

安念法師在柄胤長が亭小密謀と談図

○由利中八郎変心千葉助成胤安念と生捕

安念法師面縛せしるる図

○金窪行近由利惟久欺て在柄胤長と生捕

荏柄胤長必死の勇と現と図

星月夜頭晦録四篇卷之一

僧安念鎌倉の諸士を衞ふ

抑天下の治乱国家の興廢ハ皆天の命中シテ人力の暨処ニあるは
いへ共往事の顛覆と鑑トシテ後事の戒トセバ聊傾と持士を愛トシ
存スルニ必ベシ古カ七國の北を祀スルニ三ツあり外戚擅を執テ國政
與ニ第一トシ美婦賤妾寵ヲ多ク君と盡惑シテ分ニトシ奸
臣佞士左右シテ賢臣忠士と遠ク分三トシトシ源頼朝卿千辛
万苦を歴ク一時の運あり適日本從追捕使の職を命ヒ武臣の
業を多ク創あり一ニ代頼家字の時より外戚ハ亦時政肇テ荏柄を
執ルレバ忽頼家の生害多ク資明の父スルニ畠山重忠も亦一ニ減
亡一ニ代実朝ハの時多ク時政の子息相模守美時外戚伯父也



星月夜頭口編卷之一

執権を継尼沙臺北条時政女君の由母公孫不美時を長負るゆへ威
 勢源倉を廢ひ諸士皆阿諂く後さる者なり君賢明寛仁にまかせ
 ども由若輩とのひ此時及でハハハ仕めんと細く漢呂氏唐に武
 氏の大患あり今眼前おと卵を累るの危あり和田左衛門尉
 美盛三代の功臣ゆき智勇忠良の俊傑君の為国家の爲に肺
 肝を碎とせむ君は仕る長幼昇る皆中条が徒なれば一人の美盛を
 引んばせ今美時ひ屈せざるものハ和田が一黨のとなれば美時又萬
 事和田を拒む時節を計り傾んと巧美盛又毎々美時の邪惡を
 折れ非法を妨ぐるゆへ執権と法士別當の老臣と兩雄の内心龍
 虎の争あり終つひ一方傷くの兆を見れば信州小笠原泉次郎
 親平同志の勇士を遣ひ君の爲不國賊なる小栗家を誅せんと盟約と

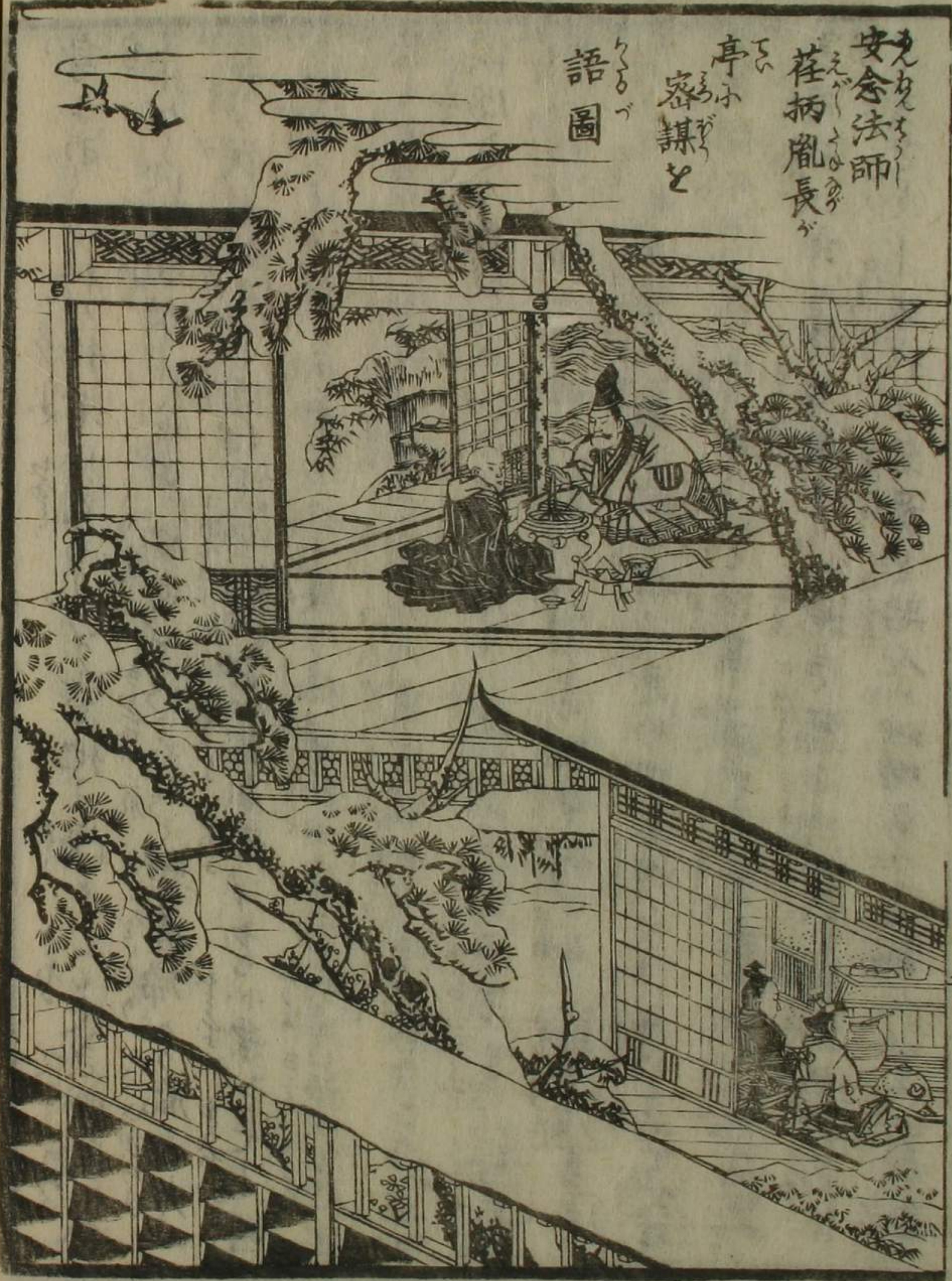
固め阿静坊安念をし源倉の諸臣と味方はてば安念源倉へ
 趣知縁の方は宿在て日みく好身ある方へ徘徊し世々の物候より
 為財の形勢を論ト吾人の志を探り小栗家を悪む心あるをは終
 密旨を明し味方とし連判し加へるが元來弁舌利口の法師なれば
 何も安念が詞の勇し死を兼同意する者少くは然とりはつとり
 名ある勇士大身の面々一人もは安念のつとりは器量は武士と
 術士とを碎き先達と味方とを中の縁を求め三浦見玉の
 人々は交を結びし一たをは獲し口外にぐとく徒に
 月日を送るがは年暮建曆三癸酉年正月十三日安念和小平太
 俊長が荏柄の館に移り四方山の物候を折り雪降余寒烈く
 徒然なりるは人は俊長も一間小栗安念法師と寛談しるに

安念為時世上の形勢法家の盛衰を佛道の因果に譬諭重忠
 且に忠良を害せしむる報を知らざるを説又ハ周易ハ九龍の悔と云
 出改事を衝と云俚諺はるし何となく北条家はあつたは龍長
 元來勇猛中々聊も伯なき不敵の丈夫とのう人意は惟ふ処を蘊
 ざるの事象ありれば子嗣を附くも榮が極成るものと言哉るあど
 扱ハ此仁勇時を憎と云くはこれ密意を括後味方入んけ人
 を人と一味とせや三浦一黨は狙まる者多うん外の人よりけ人
 第一あれと多ひは猶も伺をゆくまを採伺少や茶が邪佞を憤家
 お返あられ終り内これ企を語君のふは彼賊を誅し右大將家草
 創の経念を安んじあハ滅は大丈夫の忠臣あんと氣を勵しやれ
 龍長始終を笑く大喜び我も此年月逆臣を討く國家の太平哉

あきんとあへち為時彼賊子伯の家多むがゆへ狼人他人は誅むむ諸
 國の名家臣ホキ人として右幕下の厚恩を受ざるものやといへ也
 此恩と忘却し却て逆臣小媚伯に實は君を多し忠臣初記を怨
 とせり泉小次郎此家守られ也初後日恭信州の國人ハ夫をうかの
 賊を討んとすを況や譜代の臣として経念を任むる我も子孫に
 せや也然れは家臣の事とあり縁は終るを廻し本意を達せんと
 行要之親平が御妻非姉の申し感じせりとて連判状を出せ
 姓名をらんく惜らくも是ホの案あてを申し絶りるべしと申あへ安念
 系もた極められた大身の歴くも便るべき縁あり目も大切の美
 他を恐れ根子や出さむ良三浦一黨の内あく何れを誅し
 かバ大あふ幸と昼夜終る今日貴君子出會暗夜子灯を燈る

地以上の貴君より一族を修ひ下さるが親平始連印の者たの六女
 少人深念ありおん方修ひぬば力場を任せられたと親平あり
 中舎る処之各心ハ猛一と云は為地の案内に達せぬを器あり
 人に舎が指揮を修り俱に穂倉へ打出ん了管おと中々バ龍長
 黙然不肖あれ我も三浦の一族に列る為之国家の愁を除んぬ不
 かくの通と告知さば我一黨悉く合解志し何れぬ折をえ合一族
 外好身ある事修ひ一味せしむべしと中々安念限あり收び
 何れも貴君の心賢者任せん去あがら成就を親しき
 心中あり能く人を見定合作の義を示し身と中々龍長笑く
 他人をのぞく三浦一黨不放と一族あり勤ること假令自
 分の心志せぬ修るた他言をどする事あり況や肉親の好

身におくれば縁者の因ありのんぞ他子洩まをるべき聊氣を
 るべくはと頼母しく中々安念心落る長頼置帰る龍長不
 也業が我多を思と修ぬへ安念が勤ハ船りつちの業と七一國
 土を安くせんりのとめあつけ一族の棟梁和田右衛尉美盛は彼を
 悪く居居何卒を勤く謀バ大望成就嘗の中にありとあへど
 慎保き人物へ承知の程を承知悪く此中を修ぬハ業ハ繁昌を
 妬ての企と却く叱諫んぬ知修る時本國に在る急小修る事
 ぬく先平常入意あれば彼子息の中を修らひ序をみて父の
 心を探せま上の工夫ありと進倉子美盛が子元和田郎を
 美直同六郎美盛美重二人を招き密に内多を物修君のるに
 忠美を尽し未代は名譽を貽人ハ此時ありと勤るは義直



安念法師
荏柄胤長が
亭小
密謀と
語圖

重人代。其意おも及む。憎しとあふ。各を亡さんと我ら
 望む。や。くもあひ立ちまふもの。大に恨み。子連。承。父
 不快。此美を告中さんと勇立を。胤長。存。云。此
 承知。其父兄の心底。測。一。魔。忽。子。語。勿。先。此方
 中。大。成。就。一。ま。事。を。仍。人。初。棟。梁。の。身。入。を。非。か。く。の。通。と
 合。仲。政。さ。る。と。も。ろ。ん。怒。心。あ。か。中。か。は。思。業。工。夫。際。入。
 綱。を。引。き。ん。も。の。去。な。ぐ。う。美。盛。出。府。あ。る。バ。此。辺。ホ。何。と。あ。く。
 刃。を。ひ。く。搜。あ。人。君。の。為。国。土。の。為。不。賊。を。保。ま。る。ハ。忠。臣。勇。士。の。中。
 意。の。索。を。古。し。後。患。を。除。者。も。在。り。探。と。物。落。あ。る。ハ。合。仲。あ。ん。
 否。ハ。其。時。の。答。あ。く。あ。る。べ。し。と。中。偷。一。つ。れ。バ。あ。人。も。尤。と。同。ド。
 然。ら。バ。好。男。あ。る。事。を。傳。へ。ん。と。く。三。人。肺。肝。を。碎。き。人。を。同。ひ

味方にあ。る。面。く。園。田。七。郎。成。支。波。河。刑。部。六。郎。兼。盛。狩。野
 小平。太。行。持。磯。野。小。太。郎。安。茂。細。井。十。郎。時。重。等。あり。そ。外
 誰。余。の。徒。居。退。く。同。志。相。加。り。た。れ。バ。荏。柄。平。太。大。小。収。び。安。念
 中。の。ヤ。ア。本。意。を。達。せ。ん。と。迫。た。ふ。あり。此。坊。ハ。子。國。子。親。平。を
 始。味。方。の。面。く。誰。余。あ。る。格。中。さ。る。と。そ。ろ。れ。バ。安。念。承。知。し。て
 別。と。る。が。自。ら。帰。国。及。び。書。簡。中。に。招。ん。と。次。弟。逐。一。書。記。
 親。平。の。許。へ。を。一。手。身。を。強。倉。子。在。る。猶。も。同。志。成。増。加。へ。ん。と
 せ。り。

由。利。中。八。郎。彦。心。千。葉。助。成。胤。安。念。を。擄
 初。も。安。念。が。使。信。州。中。島。泉。小。次。郎。親。平。よ。書。信。を。お。渡。し。た。れ。バ。親。平
 漢。終。て。大。小。収。び。即。時。は。同。志。の。面。く。を。お。傳。へ。誰。余。子。趣。の。支。度。を。洞。へ

内分の御府あるは、彼を別く成る国を打立、徳倉に馳せ、縁家子便り居もあり、表向御府と披、居もあり、又八咫を以て時日を待合せ、荏柄平太を初、一味の薩倉武士内々集せし、秘中を渡り、爰より由利中八郎惟久と云者あり、精兵の味ある由へ、安念傳を求く、好身を結び入魂とあり、が、竟に密謀を以て同意せし、味方の連判子加り、神文を忍、五二の一味、うい、に俄に身を變、此の、子葉助成胤は、薩倉元来の、茶家へ五二の入魂を、密に、び、術人と云、が、從、執、あ、く、く、わ、分、明、か、ら、鹿、怒、の、注、進、も、成、結、と、名、を、取、惟、久、を、懸、く、く、く、不、か、あ、へ、我、軍、く、中、の、事、柄、後、子、丹、の、忠、義、を、許、へ、恩、賞、を、賜、進、せ、ん、と、云、は、れ、惟、久、忽、ち、欲、心、を、起、速、に、領、掌、一、由、が、安、念、を、對、面、し、七、中、の、向、を、某、日、来

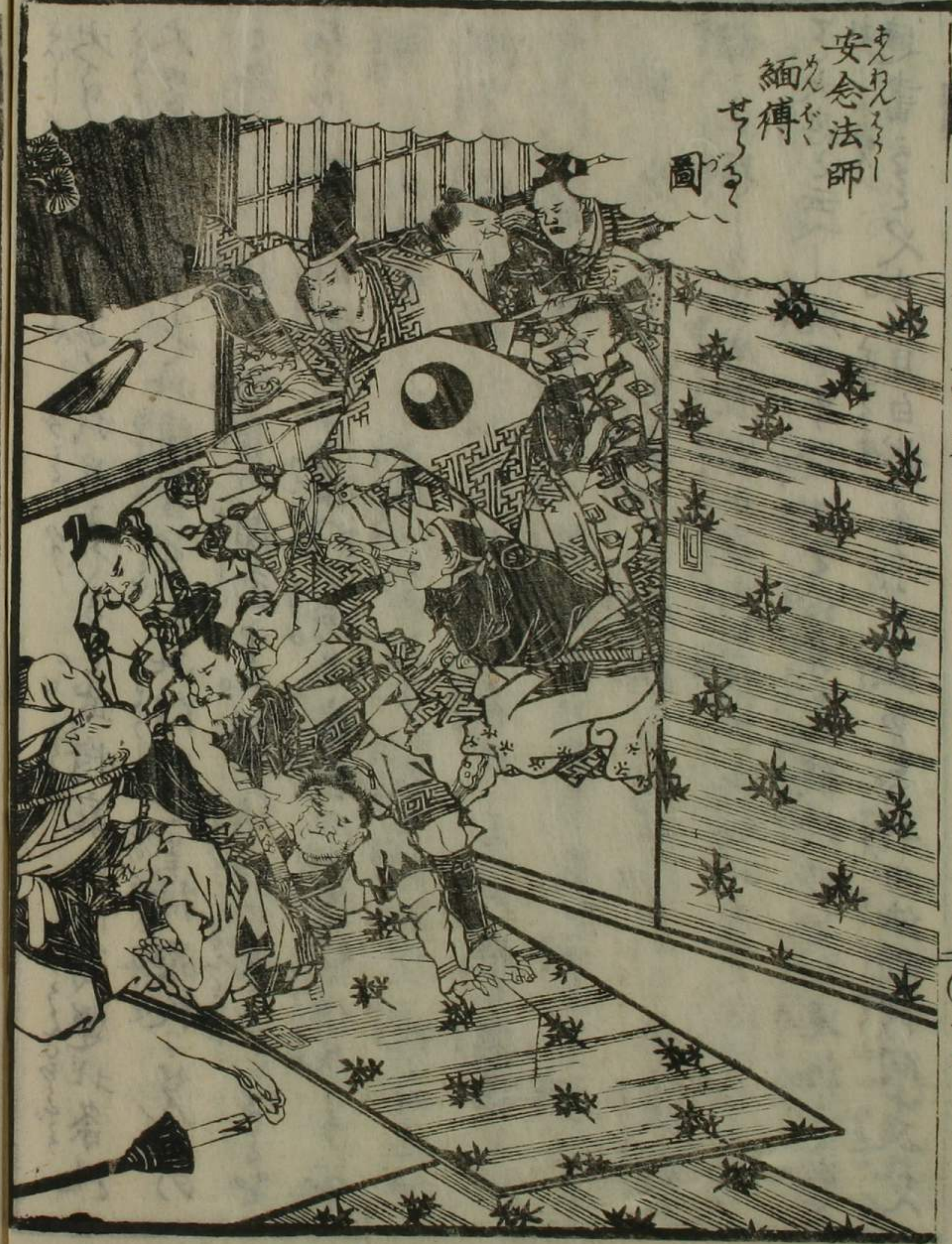
千葉助と入魂、あへ一味、せん、と、心中を探、く、執、権、を、怨、む、は、我、彼、を、謀、せ、六、国、家、の、為、あ、ん、と、を、云、ふ、は、葉、助、成、胤、の、躰、危、れ、し、り、依、る、者、皆、同、道、を、彼、亭、へ、来、今、一、応、勤、る、不、於、て、ハ、一、味、疑、あ、る、べ、し、と、云、は、れ、が、安、念、成、胤、は、右、幕、下、以、來、旧、功、の、盛、に、あ、同、心、を、く、ハ、彼、人、を、人、ハ、百、孫、中、増、え、し、と、云、は、れ、子、達、あ、人、彼、亭、は、あ、れ、が、成、胤、を、く、給、く、ら、り、ゆ、へ、厚、く、款、待、し、良、法、和、ま、及、る、時、は、惟、久、が、茶、の、我、志、傍、若、無、人、あ、る、を、憐、れ、あ、れ、忠、義、の、武、士、を、憐、れ、ハ、國、家、の、為、は、彼、賊、を、除、ん、と、の、あ、つ、天、晴、の、大、功、あ、ん、と、云、時、安、念、又、并、舌、を、震、し、大、丈、夫、真、忠、の、志、を、演、説、く、は、れ、成、胤、成、胤、の、躰、を、危、し、我、ら、は、ひ、み、を、あ、ん、が、渠、が、勢、熾、あ、り、力、足、ら、ず、を、怨、居、り、今、か、く、忠、義、の、面、く、君、の、為、は、斗、畧、を、廻、ら、さ、る、茶、國、土、の、大、幸、君、の、運、み、み、く

在^{いま}るるものあり我身不肖^{おごり}おれを幕下右府父とも^{あや}頼^{たの}むるあり仰^{あや}
 あり^{おご}る亂^{らん}が孫^{まご}へ何^{なに}ぞ賊^{ぞく}臣^{しん}と云^いふ^んぞ^んぞ^ん誅^{しつ}戮^{りやく}の^しを^{おご}る^んや^おい^ん
 たち既^{すで}に此^こ美^みを^そう^りふ^る某^{たがひ}も粉^{こな}骨^{ほね}碎^{くだ}身^みを^かま^ま忠^{ちゆう}誠^{じやう}を^おこ^し去^さ
 ぬ^ら彼^{かの}賊^{ぞく}ハ提^た原^{げん}が^おお^り君^{きみ}と^お厄^{やく}公^{こう}を^お後^ご楯^{たて}と^お殺^{ころ}し^居れ^る容^{よう}易^い
 誅^{しつ}戮^{りやく}を^かへ^ぬら^う人^{ひと}同^{どう}哀^あの^め面^{めん}ハ^お雅^{みや}と^お忠^{ちゆう}美^びの^{ひと}を^お見^み立^た
 誓^{ちか}詞^しを^と取^と固^こめ^んバ^あ味^{あじ}方^{かた}の^{うち}内^{うち}小^こ変^へる^ると^ま実^{まこと}を^おお^しや^るあ^ん
 安^{あん}念^{ねん}連^{れん}判^{はん}状^{じやう}を^お出^だす^一味^{あじ}の^あ事^{こと}か^くの^{ごと}く^一美^み君^{きみ}も^お姓^{せい}名^なを^お記^しし^血判^{けつ}
 不^ふ承^{じやう}へ^お迎^{むか}え^せられ^ば成^{せい}胤^{いん}披^ひら^る泉^{いづみ}小^こ次^じ郎^{らう}發^{はつ}頭^{とう}人^{ひと}と^して^甲斐^ひ
 信^{しん}濃^{のう}越^{えつ}後^ごの^若者^{わかしよ}が^美濃^{のう}尾^お張^{はり}伊^い勢^{せい}の^国人^{くにびと}小^こ敷^{しき}多^た加^かは^る信^{しん}念^{ねん}武^ぶ
 士^し八^は和^わ田^{でん}平^{へい}太^た胤^{いん}長^{ちやう}を^お始^{はじめ}美^み盛^{せい}が^子息^{こゝろ}ホ^お介^け名^な譽^えあ^る事^{こと}一^い味^{あじ}と^し
 する^ある^あ成^{せい}胤^{いん}ハ^中大^{おほ}御^{おん}守^{まもり}き^まふ^此者^{もの}た^りを^お起^{おこ}さ^ば由^{よし}と^して^兒

大^{おほ}き^めび^き小^こ子^こく^我月^{つき}入^いる^を武^ぶ將^{しやう}家^けの^山高^{たか}運^{うん}北^{きた}条^{じやう}に
 大^{おほ}き^めの^つ中^{ちゆう}の^こ此^こ連^{れん}書^{しよ}を^お止^とめ^此法^{ほふ}師^しを^お捕^{とら}證^{しやう}據^{きょ}せ^んもの
 と^おい^ふ諸^{しよ}臣^{しん}時^{とき}世^よの^つ推^{おし}門^{かど}に^阿り^忠義^ぎの^士お^おり^恨居^{にく}り^し不^ふ
 勇^{ゆう}に^此連^{れん}書^{しよ}を^お見^み悦^{よろこ}此^こ上^{かみ}や^ある^某も^同志^しの^一族^{しやく}に^此を^お
 語^{かた}せ^せ悦^{よろこ}ば^らし^中を^おん^{かく}大^{おほ}勢^{せい}と^合せ^して^六片^{へん}時^{とき}も^猶豫^ゆと^して
 あ^らば^今宵^{けふ}一^{いっ}族^{しやく}を^あつ^め一^{いっ}处^{ところ}に^姓名^なを^お志^しす^事を^おし^るべ^し各^お後^ごに
 一^{いっ}宿^{しゆく}と^して^中を^おん^あ念^{ねん}を^お懇^{こん}め^る不^ふを^お免^ます^一夜^よハ^成胤^{いん}が
 館^{くわん}に^止宿^{しゆく}し^て成^{せい}胤^{いん}密^{みつ}に^惟久^{きう}を^お招^まき^して^此美^みを^お注^{ちゆう}進^{しん}せ^しり
 大^{おほ}忠^{ちゆう}と^いふ^一既^{すで}に^手證^{しやう}據^{きょ}を^おぬ^ら上^{かみ}ハ^彼法^{ほふ}師^しを^お引^ひ連^{れん}訴^そ人^{ひと}と^欲せ^し
 連^{れん}書^{しよ}と^して^{一旦}白^{はく}状^{じやう}と^して^大法^{ほふ}と^して^件の^法師^{ほふし}拷^{こう}問^{もん}に^及れ^ん



安念法師
緬傳
七
圖



されども大膽の悪僧は常中やまど。渠に白状さする方便なきが。
 今宵此辺と安念を一不才揃しむべきは、然る時ハ一味の者さのそ。
 此辺を怨まど。神文延致され、わつらも、あまを、あひ表向。
 一不才生捕跡、はうらうらくと私語られ、惟久、怪び、是ハ同ト頓て。
 客間に入安念と一不才在、快く酒宴を、居る處へ成胤出。
 来り、一族、悉く、集せり、是へ、各々、對面させ、中さんと。
 あり、安念も、惟久も、威美を正しく待てる、次の間、殆多人。
 音しく、あまの、成胤、声け、何れも、是へ、推系し、松客に對面、みと。
 唯久、承ゆと云、や、吾襖を、さする、と引明、屈竟の捕、大勢。
 を、うくと、駈入、る、を、も、い、せ、安念、惟久、あ人を捕、く、押へ。
 られ、惟久、勢、き、ま、る、解、あ、く、こ、い、い、う、ある、狼藉、を、と、云、せ、も、果、む。

繩を縫うり安念固よりあまう者、われ、偕へ、成胤、を、竊、られ、口。
 惜、ま、よ、と、大、小、悲、働、人、と、り、げ、ど、も、捕、ま、大、勢、を、押、られ、上、宵。
 酒宴、は、沈、醉、し、列、返、さん、か、も、あ、く、終、り、捕、れ、る、こと、是。
 非、あ、る、も、成胤、ハ、あ、ま、終、り、安念、を、欺、擗、即、時、は、あ、人を、引、立、させ。
 和、条、の、亭、は、行、向、ひ、美、時、は、對、面、し、て、右、の、格、子、を、物、流、連、書、を、い。
 られ、美、時、は、を、見、く、大、驚、死、怖、れ、何、ぞ、計、ん、此、事、斯、る、企、を。
 あ、ま、ん、と、い、是、を、閑、の、り、ハ、あ、ま、足、下、日、來、の、好、身、を、忘、れ、告、給、る。
 る、悦、入、て、い、且、ハ、君、へ、の、誠、忠、此、上、も、あ、れ、ハ、働、と、厚、く、礼、を、送、る、れ。
 成胤、安、く、仰、の、り、日、頃、ハ、怨、意、ハ、格、別、是、ハ、全、く、国、家、の、大、事、ハ、
 ぬ、ハ、某、君、も、三、代、臣、も、三、代、の、厚、恩、を、承、り、も、ハ、偏、り、寸、功、を、存、て。
 勢、の、り、既、に、連、書、あ、れ、ハ、謀、及、人、の、姓、名、お、知、れ、也、此、外、一、味、の、英。

あしんも才郎一安念と拷問く白状させしぬあへ則叛逆の輩
 悉く當地に集居しあれは安念捕られ方を退散せし申上り。
 速に消息をきき悉く同時捕まへたあへくはたのり及ばさん。
 片時も急あへと物由利惟久が決り委しく依り美時が始て
 密に穿鑿と逐上捕まへ向べしと夜直小尼公の所へ
 悪びれ右の次才上たれバ尼公の外務のたひ成流中をむ覚
 び子く吟味をわし逆臣ホ一と生捕獲まへしと宣ひるわど美時
 事を定めあへく其由美の事を成流に命じたる
 金窪村近由利惟久欺く荏柄胤長を生捕
 かく成胤安念と引せ美時と俱に糾問する竹木のどく返答せ

ざるゆへ千葉助中より汝の口を閉とも連書既よ爰に在り
 あれは吟味及べ大法ゆへ尋問処へ白地は白状せ汝が命を助べ
 と和りに必る安念欺咄く不忠不義の賊に欺れし我謬汝と死
 欲小迷ひ命を惜む僧はわし我を賺し侍となせよの連判状を
 吟味せよ此使を仕損へば一味の族へ再び対面せしと心不誓て
 国をわしれはのり問うて我口より一言も発せまじと虚嘯く居り
 しく千葉助北条に向ひ此法師存るわしは白状仕るまど今一人の
 囚人由利中八郎惟久と引せ吟味あれとやゆへ頻く惟久と
 引せ成胤くひくや舎をるりゆへ商人立合同し糾問せし
 るれ其初の程は安念子等しく返答せしりしが糾問数度及く
 白状を美時悦び神妙に白状の上り約束の通汝が命ハ助くべし

とて雑人子下知一即時子惟久が禁を解出侍子を休息せむ
 千葉助又安念に向ひ弥々明白に汝子問及ぼす之を惟久
 を人助汝を罪せんも不便に俱子白状して一命を助らんやと情ら
 しく初れ安念も動ぜぬ我幼少分佛門に入て悪魔降伏を祈
 人として善道子趣しむを勤とに此度逆臣と誅し天下の憂を
 除んと忠臣の企滅し人を害し世界の助けとあて候なれば我
 恨で此使と蒙王普く忠義の武士と執ると凡夫の衆生と消
 度より功德勝るゆへ此上の願なりとあるも寸善尺魔の障
 碍ありて千葉とて人面獸心の賊子欺れし大願成就の時
 ざる処ありとて惟久に欲心臆病の族は同ドく汝らも
 随ひ忠義の上と白状し采花と望んやと我を誅せよ。

是命數の尽る期あれば汝ホと怒まじとヤとてあ人心中怒れせ
 急ふ斗べきも術あり、此上の連判状子引合せ一と召捕べきとて
 あ人君へ言上よ及び泉小次郎張本とて徒黨と結謀叛を企ぬ
 成胤忠直と存るゆへ中使の法師と生捕連判帳も入仕り上件の
 法師と乳問仕も更一と言もやと一味の族退散せし討つて
 居下と固也同時は生捕の務を争ひひんやと迷これバ君甚と愕せ
 めひ世上の強動ありざる後に事を乳とて仰出されは美時
 先密使とて諸臣を招集し其面々を結成七郎左の尉朝光
 足立九郎左の尉景盛金窪兵衛尉行近伊東六郎祐長同八郎
 祐廣豊田大郎幹重山上四郎時元高山三郎重親小山左馬の尉

朝政ホ之、美時此、高命と達、後倉中、在、不、の、叛逆人、を
召捕べし、と、配と定め、向し、先、張、信濃、国、の、住人、泉、小次郎
親平、河、の、系、式部、丞、泰時、籠山、次郎、高成、が、討、高、山、三郎
重親、宿屋、次郎、重房、が、討、山、上、四郎、時元、上、田原、平三、綱、父子
三人、の、討、豊田、太郎、幹重、園田、七郎、成友、が、討、六、小、条、三郎
時、洞、磯、野、小、大、郎、安茂、が、討、結、城、七郎、朝光、和、田、四郎、美、真、が
討、伊、東、六郎、祐長、和、田、六郎、美、重、が、討、伊、東、八郎、祐、廣
侯、川、刑部、六郎、兼、盛、が、討、足、立、九郎、左、衛門、尉、景、盛、和、田、平、太
胤、長、が、討、金、窪、兵、衛、尉、近、守、野、小、平、太、行、持、が、討、結、城
左、馬、尉、朝、政、各、大、命、に、依、り、即、時、宿、々、寄、宿、子、向、ひ、或、ハ
欺、騙、し、て、捕、又、ハ、理、不、尽、子、搦、捕、し、小、皆、ひ、よ、と、一、つ、れ、ハ

左右、を、召捕、り、隨分、穩便、に、向、ひ、し、れ、此、子、に、依、り、
後、倉、中、騷、動、に、及、び、就、中、金、窪、兵、衛、尉、近、守、在、柄、平、太、が
討、を、承、り、甚、と、彼、が、勇、猛、を、恐、れ、居、る、に、尋、常、に、ハ、敵、對
叶、取、逃、し、て、後、と、なる、ゆ、へ、種、々、工夫、を、廻、り、美、時、へ、願、ひ、
達、し、由、利、中、八郎、惟、久、を、同、道、に、偽、り、搦、ん、と、望、む、に、美、時
を、許、し、惟、久、を、呼、び、し、謀、を、授、け、行、進、と、一、所、小、胤、長、河、と
し、き、し、る、金、窪、工、夫、を、あ、せ、し、り、先、屈、竟、の、逞、兵、百、人、を
勝、つ、在、柄、天、神、の、後、森、の、内、に、伏、置、き、舟、も、弓、矢、を、持、つ、
亦、蔭、に、隠、れ、惟、久、に、謀、を、授、け、し、惟、久、あ、ま、く、し、胤、長、胤、長、が
宿、所、に、入、り、密、に、舟、も、日、比、の、斗、俊、を、殺、せ、し、味、の
面、に、所、へ、召、す、と、頻、々、異、美、に、及、ぶ、理、不、尽、に、引、立、ゆ、る、由

荏柄胤長
必死の男と
現は圖



告知する者あり其心驚き死伺ひ安らむや信州の事云々召捕れ
 うらよめ其心討ひの事ん王を恐む唯是人宿所を逃れしが此返ハ
 此事此事と知れぬ事と云ひ知せしん片時も子く道
 出あへとやあど胤長強死あが我くが計畧露れせしめ召捕り
 申したる愛を落去ち安穩あそりのわらんや慙は當所を
 離れ途中召捕れバ後代の恥辱成べし子ぬんバ死にじと
 為く覚悟の前あは今更強べき事あは計ひ事ハ同答し
 其品にありカの際戦て討死せしと落れく中られバ惟久きく
 死ハ安く生を難し。あひせし大望露れせん是非及されを
 討死を急ハ良於のせむら処一旦を立退親平と中合再謀の
 工夫を有くこれあまなる此処ハ討死するハ唯我々の勇猛を頼

しやまの浅に似てくし討更親平の山辺を人と第一の頼とあひ
 居るより討死と云はバ計り計会あらん鬼角此処を守き親平と
 一不も成運を天子任せんと勅られ平太胤長の代ハ異見ハ
 随人と云時惟久悦び供人らそハ妨ぬべし駿馬は策打撃際
 遠く地退人と欺られバ実尤とあ入るハ打乗難共を人々供すバ
 急死する程は既ハ天神の森にさしからる時金窪杉道ゆりかけ
 ち引小箭をまひ胤長が馬を標的より曳く放しけるが過む
 馬の右腹右方左へ射透し何れもくもなき馬ハ急風と
 倒せどくまハ大地へ逆さるる墮と相國ハ森の中より百人の
 伏兵一時は起り出透さバ取て押んとする処を胤長左方にて
 二人を捕んで云文計投付起立らんとする処を大勢あは足る

搦んとし（おととす）胤長（おのなが）女双（むすめ）の勇士（ゆうし）を（を）バ（を）杜力（とぢりき）を（を）解（と）し（を）あまきまを（を）蹴（け）死（し）し
 投付人（なげつけひと）磔（はりつけ）を打（う）つ（を）働（はたら）く（を）さ（を）し（を）め（を）の大勢（おほしせい）を凡人（びんじん）よあ（を）く（を）ど（を）と（を）た（を）ぢ
 ろ（を）く（を）を（を）大（を）に（を）行（を）近（を）思（を）死（を）す（を）の（を）大（を）の（を）挙動（きょどう）ゆ（を）と（を）云（を）つ（を）走（を）き（を）胤長（おのなが）を
 後抱（のちかか）よあ（を）く（を）抱（を）く（を）此間（こゝ）は四五（よ）十（ご）人の（を）士卒（しそ）也（なり）平太（へい）が（を）た（を）た（を）の（を）足（を）ふ
 取付（とりつけ）飽（あ）が（を）上（を）よ（を）お（を）き（を）り（を）終（を）に（を）繩（を）を（を）ど（を）懸（を）く（を）る（を）胤長（おのなが）は（を）る（を）より（を）あ
 る（を）時（を）左（を）の（を）足（を）を（を）あ（を）く（を）る（を）ふ（を）敷（を）れ（を）痿痺（しび）後（を）ふ（を）あり（を）た（を）れ（を）ども（を）形（を）の（を）ど（を）も
 働（はたら）く（を）る（を）が（を）自由（じゆう）よ（を）立（を）上（を）る（を）より（を）あ（を）く（を）る（を）と（を）し（を）と（を）や（を）り（を）く（を）と（を）搦捕（なす）れ（を）る（を）り

星月夜頭晦録四篇卷之一終

